

2. 保全対策検討の達成状況

1) クロマツ保全検討業務（平成13～14年度）

学識経験者、専門家により構成される委員会（委員長：千葉大園芸学部 丸田教授）を開催して、現況調査（平成14年度対象木178本）を実施すると共に道路構造を踏まえたクロマツの保全の基本となる方針を取りまとめ、今後の保全の具体化を図る上での技術的課題の整理を行った。

2) クロマツ移植試験施工検討業務（平成15～18年度）

樹木の専門家により構成される検討会（座長：NPO 樹木生態研究会 堀代表理事）を開催して、現況調査（平成16年度対象木162本）を実施すると共にクロマツの保全の一手法である移植について、これまでの移植成功事例を参考に市川砂州上のクロマツの生育状況及びクロマツの生態的な観点から、移植方法の案を取りまとめた。

3. 移植試験施工

1) 目的

平成15～17年度に実施した移植施工検討に並行して、平成15年度から検討地内のクロマツを対象とした移植試験施工を実施し、試験施工の各段階で得られる情報を移植方法の案の取りまとめに反映させることとする。

大木（大径、老齢）の移植方法の確立

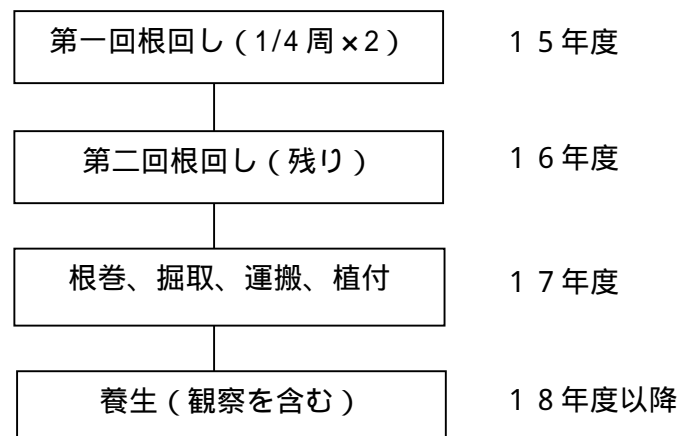
移植先が限定され、比較的長距離の運搬が必要になることに加え生育個所が砂地盤であるため、移植木の根鉢を崩さない適切な機械等を用いた施工方法の確立

移植技術の適合性の確認

検討地区のクロマツは、強剪定の履歴や宅地造成等により必ずしも生育環境は良好ではないことから、地上部の樹勢に加え地下部の状況（根茎、土壌、地下水位等）を併せた健全度の評価による移植に対する耐性の推測及び実施工による移植技術の適合性の確認

2) 試験施工の概要

時期
平成15～17年、2～3月上旬
場所
平田2丁目外かん事業用地内
数量
3本
施工者
東日本高速道路㈱千葉工事事務所
が造園専門業者に発注して実施済



試験移植木の状況



トレーラーによる運搬作業



移植完了時状況



H20 年秋状況

試験移植木の施工後の状況

試験施工を行った3本のクロマツを対象に、樹木の専門家による健全度診断を夏季及び秋季に実施。その結果移植後2年半を経過したH20年秋の現時点でも「移植前の診断結果と同様で変化はなく、試験木については生育に問題ない。」との所見を得ているところである。

今後も移植後3年間を目途として継続して生育状況の調査を行い、本移植施工へのデータ収集をおこなう。

4. 移植工事の着手

平成15～18年度に実施した移植施工検討及び移植試験施工の結果を踏まえた移植方法の案に基づき、平成19年度クロマツ移植工事を発注し、「移植可能木」の移植工事に向け第1回根回し工に着手した。



根回し工事状況

東京外かく環状道路（松戸～市川）クロマツ保全に関する検討委員会

委員会名簿（所属等は当時）

委員長	丸田 頼一	千葉大学園芸学部緑地・環境学科環境植栽研究室	教授
委員	島田 正文	日本大学短期大学部生活環境学科ランドスケープ学研究室	教授
	柳井 重人	千葉大学大学院自然科学研究科	講師
	堀 大才	(財)日本緑化センター	主幹
	藤原 宣夫	国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部緑化生態研究室	室長
	有村 恒夫	JH試験研究所	調査役

東京外かく環状道路（松戸～市川）クロマツ移植施工検討会

検討会名簿

座長	堀 大才	NPO 樹木生態研究会	代表理事
委員	塚原 道夫	樹木医 日本樹木医会	千葉県支部会員
	伊藤 伴尾	樹木医 日本樹木医会	千葉県支部会員
	小池 英憲	樹木医 日本樹木医会	千葉県支部会員
	内山 拓也	(株)高速道路総合技術研究所	緑化技術センター

H16年度クロマツ生育状況 調査結果表

[検討地内：菅野三丁目～平田二丁目]

判定	評価	本数 ()内：H14調査	
		本数	()内
	現在の生育位置で保護	29本	(33)
	移植が可能	26本	(25)
	移植が困難	66本	(50)
	更なる調査が必要	41本	(70)
	合計	162本	(178)